

日 時 : 2013 年 4 月 11 日(木) 13:00 ~ 17:00
 場 所 : 塗料報知新聞社 会議室
 出席者 : 窪井要((有)久保井塗装工業所)、内山貴識(東和酵素(株))、宮川昇(東和酵素(株))、
 早川政男(第一塗装工業(株))、河本謙一(株)小泉塗装工業所)、
 島田哲也(旭サナック(株))、木下稔夫(東京都立産業技術研究センター)、
 幹事: 平野克己(日本塗装機械工業会)、福田良介(日本パウダーコーティング協同組合)
 アドバイザー: 坂井秀也(坂井技術士事務所)
 オブザーバー: 田村吉宣(いすゞ自動車(株))
 ゲスト: 岡田久佳(岡久(株))、田辺直((有)タナベ塗工所・愛車館タナベ(有))
 佐藤澄(関東経済産業局地域経済部地域振興課産業クラスター専門官)、
 白石千紘(関東経済産業局地域経済部地域振興課首都圏西部(TAMA)担当)
 魚谷英未(日本ワコン(株))、渡辺昇一郎(株)アースクリーンテクノ)
 小林昴太、左近雅美 明治大学(森下正中小企業論ゼミナール、学生)
 事務局: 有馬弘純(塗料報知新聞社)

20 名 敬称略

***** 議 題 *****

今回、新潟から塗料販売店の(株)岡久と金属屋焼付塗装・乗用車板金塗装のタナベ塗工所・愛車館タナベの両社がゲストとして前回に続き参加した。また、アースクリーンテクノが初参加。明治大学学生は見学を行った。

1. 岡山県塗装技術研究会主催「工業用塗装技術セミナー」報告

環境技術分科会に講師派遣の要請から、3月12日(火)開催の同セミナーに対応。アンケート結果をもとに(高回収率、記名率)、講師を務めた平野氏、内山氏(環境技術分科会セミナー実行委員長)、(もうひとりの講師である杉山氏(アネスト岩田)は欠席)、協議会会長代行の窪井氏が当日の様態を振り返った。

総員 96 名(参加者 85 名、講師・取材 5 名、会場担当 6 名)

アンケートでは、参加者の 96%がセミナーを高評価、塗装のゴミ・ブツ対策事例のテーマに関心が多く、定期的な情報発信を望む回答が多くみられた。

今回のセミナーを通じ、工業塗装高度化協議会の活動が認知され、塗装のボトムアップを目標として今後も全国で情報発信を実施していくことが確認された。

これに関連し、岡田氏から中越にてセミナー開催に向けた企画案が発表され、中越エリアのニーズをヒアリングしたうえで年内に開催を検討中。新潟は東大阪に次ぐ中小企業が集積し、多くの関連会社へ情報発信が可能で、単価勝負でない塗装技術を伝えたいとのこと。また、横のつながりが希薄なので、現状の塗装業界の動向や技術を収集することで将来の塗装業の目指す方向が定まり、塗装業全体のレベルアップに繋がることを狙っている。

2. 環境技術分科会取組みの四つのテーマ(進捗)

1	塗装の社会的評価	行政や大学、また学生に対しても広く声をかけていく。
2	サポインの横展開	当会参加者による発信、3 団体や当会で実施していくセミナー・講演を通して啓発するため、関東経済産業局の佐藤澄氏より、ものづくり支援の最新情報の紹介を今回実施した。

3	環境 対策	産廃	九州工業塗装協同組合の理事会(5月17日)にて、塗料滓のペレット化について協議予定。 本年夏にペレット生成、秋以降に燃焼実験を計画。次回計画及び実施方法について報告予定。
		大気 (CO2)	稲葉製作所にてバイオスクラバー実験機の評価を継続中。次回報告予定。 バイオスクラバー装置は販売に向け製作を開始。
		大気 (電力)	ブースのファンモータ清掃によるモーター効率向上から消費電力削減。 第一塗装工業所にて5月に洗浄を実施し効果を検証する予定。 測定はデマンド計にて確認。効果は冬場の方が大きいと予想。
4	塗装の 生き残り策		塗装における現実のニーズを常日頃から収集することが必要。 テーマを決め、集まって研鑽することにより、地に着いたものが出てくる。 様々なテーマの勉強会や研究会を継続的に開催し成果に繋げていく。

3. その他のプレゼン

<タナベ塗工所・愛車館タナベの田辺直代表取締役>

開発のバブリングブース(メッシュ状ロールに泡を付着させ泡の壁を生成し、泡に塗装ミストを付着させる方式)について、坂井氏・内山氏が現地に訪問し、高速度カメラにて撮影した映像をもとに課題を討議した。動画から、泡そのものにミストが付着、溶剤を含む塗料ミストが付着しても泡が消えないことが分かった。泡の膜がメッシュの穴を埋めてしまい、給気口率が低下する課題について、メッシュの形状をスダレ状や網のサイズの変更する、あるいはメッシュに衝撃を与えて部分的に泡膜の無い箇所を生成する案が協議され、強化の検証を行うこととした。

<関東経済産業局の佐藤澄氏>

平成24年度補正予算等について、ものづくり・設備投資関係、円高・エネルギー制約対策のための先端設備等投資促進事業、グローバル技術連携支援事業などが紹介。今後、第二、第三の公募が始まることもある。申請書のまとめかたについて相談に応じることができる。

<いすゞ自動車の田村吉宣氏>

欧州自動車メーカーの塗装ドライブスの最新情報。アイゼンマン社製の静電除塵は課題が多く、新型のドライブス「e-Cube」の概要が紹介された。e-Cubeは塗料ミストを通い箱形状の紙製フィルタで捕集し、塗料ミストを600kg溜められる紙フィルタは簡単に交換が可能。塗料が付着した紙フィルタはシュレッダーで粉碎し、神と塗料を混合して粘着性を除去し燃料として利用する。

このシステムには、塗料の制約があり、フタル酸系塗料は自然発火のため使用不可。

<明治大学学生の小林昴太氏/左近雅美氏>

中小企業の組合の活性化をゼミのテーマに掲げ、今回、環境技術分科会の活動の様を見学。

※今回、田辺氏(タナベ塗工所)から新潟の銘酒の差し入れがあったため、環境技術分科会終了後、翌日に誕生日を迎える平野幹事のお祝いを行う。窪井氏の要請に応じ、明治大学生が購入してきた水色のネクタイを贈呈。

※次回分科会開催予定

第47回環境技術分科会 2013年6月13日(木) 13時～17時 塗料報知新聞社 会議室

————— 以 上 —————